

QA集

(MCIスクリーニング検査プラス よくいただくご質問と回答例)

Q1 MCIスクリーニング検査プラスとは何ですか？

MCIスクリーニング検査プラスは血液検査によりアルツハイマー型認知症の主な原因の一つといわれているアミロイドβの蓄積関わるタンパク質と、アミロイドβが蓄積される要因となる血管の老化に關与するタンパク質を測定することで、アルツハイマー型認知症の前段階である軽度認知障害（MCI）のリスクを統計学的に調べる検査です。判定はA～Dの4段階で判定されます。

※早期に発見し診断を受けるためのスクリーニング検査ですので、この検査の判定結果で診断が確定するものではありません。

Q2 MCIスクリーニング検査プラスに適する年齢は？

40歳以上の方におすすしめします。

アルツハイマー型認知症発症の主な原因の一つといわれているアミロイドβ(Aβ)は老化や生活習慣の乱れにより脳内に蓄積されます。人間の体には脳内からAβを排除する仕組みが備わっていますが、生活習慣病などにより血管の老化が進み、血管の弾力性が失われることなどが原因で本来持つAβの排除機能が低下し、脳内に蓄積するといわれています。その結果、認知機能の低下を招き、アルツハイマー病につながると考えられています。

このことからアルツハイマー病・MCI予防のためには生活習慣を改善し、血管を健全に保つこと重要です。特に40代(中年期)からの乱れた生活習慣病の積み重ねが影響されると言われており、中年期以降の早い段階から検査を定期的に受検いただき、ご自身の状態を確認し生活習慣の改善・早期予防をしていただくことをおすすしめしております。

Q3 全体でどのくらいの割合が陽性判定（リスクが高い）となりますか？

MCIS検査はC・D判定率は17%でした。MCIスクリーニング検査プラスではC・D判定率は21.5%となります。

Q4 陽性判定が出た場合、どのようにすればいいですか？

D判定、またC判定でもリスク値がDに近い値で物忘れが気になる方は専門医による二次検査をお勧めしております。

QA集

Q5 陽性判定が出た場合、MCIや認知症ということなのでしょうか？

この検査はアルツハイマー型認知症の前段階である軽度認知障害（MCI）のリスクを統計学的に調べる検査です。この検査の判定結果で診断が確定するものではありません。MCIや認知症の診断を行うものではなくリスクを判定する検査ですので、認知症予防に向けたひとつの目安と捉えていただければと思います。陽性判定かつ65歳以上で物忘れが気になる方は一度専門医に診ていただくことをおすすめします。それ以外の方は4つのカテゴリーの内、リスクレベルが「注意」「要注意」になっている項目に対して予防に取り組んでいただくことをおすすめいたします。（結果報告書3ページ目参照）

Q6（物忘れが気になる場合）専門医による詳細な検査では何をするのでしょうか？

（先生の意向により異なりますが）一般的に「面談」「一般的身体検査」「問診による神経心理学検査（長谷川式やMMSE）」、「脳画像検査（CT・MRI・SPECT・VSRADなど）」のような手順や検査により総合的に診断を受けます。

Q7 予防法にはどのようなものがありますか？

認知症の予防方法は多岐にわたります。詳しい予防方法については検査結果に同封している別冊資料（認知症予防マニュアルや認知症予防の情報を多く掲載したサイトをご用意しております。予防についての最新情報や自宅でできる認知症予防のための運動プログラム、専門医によるコラムなど多岐にわたる情報を提供しております。

Q8 検査を受ける頻度はどのぐらいが適切でしょうか？

MCI（軽度認知障害）や認知症の予防は生活習慣の見直しが大切だと言われています。健康診断や人間ドックと同じように、年に一回程度の受検をおすすめしています。

QA集

Q9 検査を受けられない場合がありますか？

すでに認知症と診断されている方は対象外です。

本検査はアルツハイマー型認知症の前段階である軽度認知障害（MCI）のリスクを統計学的に調べる検査であるため、認知症を発症されている方は対象外となります

Q10 他の疾患を患っている場合、MCIスクリーニング検査プラスの結果や判定に影響はありますか？

以下の疾患に該当する方は判定結果に影響がある可能性があります

- 1) 自己免疫性疾患の方 → 炎症・免疫群のリスク値に影響する可能性があります。
- 2) 急性炎症が認められる方 → 炎症・免疫群のリスク値に影響する可能性があります。
- 3) 肝硬変の方 → 炎症・免疫群のリスク値に影響する可能性があります。
- 4) 先天的に脂質異常の方 → 脂質代謝群のリスク値が高値を示めす可能性があります。

Q11 薬を服用している場合、MCIスクリーニング検査プラスの結果や判定に影響はありますか？

風邪薬や血圧の薬等は、直接影響を及ぼさないと、考えられます。

※上記1)~4)の治療薬を服用されている場合、判定に影響をする可能性があります。

Q12 通常の健康診断等の血液検査と同様に空腹で採血する必要がありますか？

MCIスクリーニング検査プラス用の採血は空腹時でなくて構いません。
ただしMCIスクリーニング検査プラス以外に別途検査（採血）が必要な場合は、食事の影響を受ける場合がありますので
医師の指示に従ってください。

Q13 溶血/乳びの影響はありますか？

双方とも強度でなければ影響はありません。

<乳び> 強度でなければ判定結果への影響ございません。
(1,730 ホルマジン濁度(FTU) までを許容)

<溶血> 強度でなければ判定結果への影響ございません。
(500 mg/dL までの溶血 Hb を許容)

【検査結果に関する問い合わせ先】

株式会社 MCBI (MCIスクリーニング検査プラスの開発メーカーです)

TEL：03-5772-1486

Mail：info@mcbi.co.jp

受診者の検査結果報告書にも本検査についてのお問合せ先として弊社をご案内しております。
受診者から直接弊社へお問合せをいただいても問題ございません。